

第107回薬剤師国家試験に向けて

第106回薬剤師国家試験を振り返る

学校法人医学アカデミー
薬学ゼミナール学長
木暮喜久子



2021年2月20、21日の両日に実施された第106回薬剤師国家試験(国試)は、改訂薬学教育モデルコア・カリキュラム(改訂コア・カリ)に準拠した「新出題基準」での初めての国試でした。表1に示すように受験者総数は第105回国試から若干減少して14031人、総合合格者数も若干減少し9634人(第105回9958人)でした。総合合格率は68.66%で、第105回(69.58%)とほぼ同じです。6年制新卒の合格率は85.55%(合格者数7452人)で第105回(84.78%)、第104回(85.50%)とほぼ同程度、6年制既卒の合格率は41.29%(合格者数2079人)で、第104回(43.07%)、

第105回(42.67%)と低下し続けています。

第106回国試の受験者は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大により、学修環境が整わない状況で不安を感じながらの受験でした。上記のように新卒での合格率は既卒より高いことから、第107回国試を受験される6年生の皆さんは、新卒での合格を目指してなるべく早く勉強をスタートさせてください。国試合格のためには、参考書の活用が必須です。受験生の約95%が使用している青本やオンライン教室などの学修ツール(青本参考：<https://www.yakuzemi.ac.jp/reference>、ICT教育室参考：<https://www.yakuzemi.ac.jp/online>)をお勧めします。

表2に示すように、国試は345問で出題されます。国試の合格基準は、第101回より絶対基準から相対基準となり、当面の間は全問題への配点の65%以上という基準も考慮されていましたが、第106回からは完全に相対基準となりました。必須問題には、足切りといわれる最低限得点しなければなら

格ラインは、1問解なしで採点除外とされた(問320は採点対象から除外)ため、全問題の得点が62.5%(344点

換算で215点)で、近年の国試では第105回国試に次いで低い合格ライン(345点換算で第105回213点、第104回225点)となりました。

また、「禁忌肢選択数2問以下」でしたが、薬ゼミの分析によると第106回の合格者数に禁忌肢による大きな影響はなかったと思われます。また、必須問題での足切りも影響は少なかったと思われます。

参考：国試合格基準

以下のすべてを満たすことを合格基準とすること。なお、禁忌肢[※]の選択状況を加味する。

①問題の難易を補正して得た総得点について、平均点と標準偏差を用いた相対基準により設定した得点以上であること。

②必須問題について、全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の30%以上であること。

補足)通常、345問を1問2点で配点し690点満点として採点される。

※「禁忌肢」は、第104回から加味されることになりました。公衆衛生に甚大な被害を及ぼすような内容、倫理的に誤った内容、患者に対して重大な障害を与える危険性のある内容、法律に抵触する内容等であり、誤った知識を持った受験者が識別されます。受験者は、禁忌肢導入の意義を理解し、6年間の薬学教育の中で医療人としての倫理観を養っていくことが重要です。

第106回薬剤師国家試験を振り返って

薬ゼミの自己採点システムは、表1のように第106回国試受験者総数が14031人のなか、12233人に登録していただいています。第106回国試自己採点システムの結果では、第104回、第105回に比較し正答率が60%を超える問題数は225問と少なく(第105回は20問程度減少、第106回はさらに3問減少)、「基礎力」に加え「考える力」「現場での実践力」等を必要とする難易度の高い問題が増加していま

した。しかし、第106回国試の合格ラインは215点でしたので、しっかりと得点できる基本的な問題をおさえることが大切です。また、実践問題を中心に多くの疾患名や検査値が与えられた中から必要な情報をピックアップして回答する問題が多くなっていることから「問題解決能力」や「臨床能力」を持つ6年制薬学部卒の薬剤師に対する期待を感じさせる傾向であったと思います。

第106回薬剤師国家試験の総評と第107回に向かって

薬ゼミ自己採点システムによる第106回国試の平均点は、表3のように第105回に比べて合計で1.2点増加、理論問題は第105回よりわずかに低下、必須問題と実践問題は第105回よりわずかに増加しています。第106回国試の領域別正答率(表4)では、例年難易度の高い理論問題の「物理・化学・生物」の正答率が低く、同様に「薬剤」も低い正答率でした。実践問題では、第105回同様「物理・化学」の正答率が低く、昨年度は60%を超えていた「薬剤」も低い正答率でした。

第106回国試では、自己採点シ

ステムの結果(表4)によると必須問題の難易度が低下したため、足切り(表2)にかかった受験生は少なかったと思います。第107回も基礎的なことが多く出題される必須問題でしっかりと得点できるようにしましょう。

既出問題の出題は全体の20%くらいとされ、単なる正答の暗記による解答が行われないように、問題の趣旨が変わらない範囲で設問および解答肢などを工夫することになっています。第106回には第105回同様そのままの再出題はありませんでした。近年の既出問題を解くことは傾向をつかむために

表1 第106回薬剤師国家試験の合格率

	合格率	出願者数	受験者数	合格者数
総数	68.66%	15,680名	14,031名	9,634名
6年制新卒	85.55%	9,983名	8,711名	7,452名
6年制既卒	41.29%	5,366名	5,035名	2,079名
旧4年制卒 受験資格認定者	36.14%	331名	285名	103名

表2 薬剤師国家試験問題区分と合格基準

科目	問題区分				出題数計
	必須問題	一般問題	薬学理論問題	薬学実践問題	
物理・化学・生物	15問	45問	30問	15問 (複合問題)	60問
衛生	10問	30問	20問	10問 (複合問題)	40問
薬理	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
薬剤	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
病態・薬物治療	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
法規・制度・倫理	10問	20問	10問	10問 (複合問題)	30問
実務	10問	85問	—	20問 + 65問 (複合問題)	95問
出題数計	90問	255問	105問	150問	345問

※実践問題は、「実務」20問、およびそれぞれの科目と「実務」とを関連させた複合問題130問からなる



薬局実務実習に行く前に 知っておきたい 法律知識

著者：白神 誠 A5判/203頁/定価2,200円(本体2,000円+税10%)

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ(<https://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。

「薬学生」「指導薬剤師」に役立つ!

薬学生が実務実習に向けて知っておくべき法規・制度の知識を会話形式でわかりやすく解説。実務の内容と関連する法律を結びつけた学習ができる。

POINT

- 実務に沿った会話形式で解説することで、その場面を思い描きながら学べる。
- 項目ごとに要点をまとめた「Key points」を記載し、知識の整理ができる。



詳細・購入はこちら